

令和8年4月

令和8年度 工学部工学課程 教育課程表の改訂

(機械工学分野、電気電子情報工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野、環境社会基盤工学分野)

[工学部工学課程 令和7年度以前入学者用]

1. 令和7年度本学第1学年より第2学年に進級した者、第2学年より第3学年に進学した者、および第3学年より第4学年に進級した者は、既に配布された「学部履修案内」を「令和8年度 工学部工学課程 教育課程表の改訂」(以下の表)に従って修正した上で履修する。

但し、下表には記載できなかった履修情報(例えば、廃止科目の履修方法)もあるので、混乱が生じないように科目担当教員等と十分に相談の上、履修計画をたてること。

2. 過年度に休学した者・留年した者・本年度に再履修する者については、基本的には上記1に従うものとするが、状況に応じた個別対応が必要なので、科目担当教員等と十分に相談した上で履修申告を行うこと。

分野	区分	必選 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容																																															
全分野 (授業科目・単位・開講時期等)							○「7 成績の評価と単位の授与」を以下のように改訂する。																																															
							<p>(新)</p> <p>7 成績の評価と単位の授与</p> <p>(1) 履修科目の評価は、授業中の成績、試験の成績又はその両者によって行われる。</p> <p>(2) 成績はS、A、B、C及びDの評語で表され（Grade）、それぞれ次の達成度と点数に対応する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>達成度</th> <th>点数</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S</td> <td>科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている</td> <td>90点～100点</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>科目の目標を十分に達成している</td> <td>80点～89点</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の目標を達成している</td> <td>70点～79点</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の目標を最低限達成している</td> <td>60点～69点</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の目標を達成していない</td> <td>0点～59点</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※GPとは成績（Grade）に対応づけた Point のこと S、A、B、Cの評価を得たものを合格とし、単位を授与する。 なお、特別な授業科目については、S、A、B、Cの評価に代えて合格で表すことがある。</p> <p>(旧)</p> <p>7 成績の評価と単位の授与</p> <p>(1) 履修科目の評価は、授業中の成績、試験の成績又はその両者によって行われる。</p> <p>(2) 成績はS、A、B、C及びDの評語で表され（Grade）、それぞれ次の意味と点数に対応する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成績</th> <th>意味</th> <th>点数</th> <th>GP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S</td> <td>科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている</td> <td>90点～100点</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>科目の目標を十分に達成している</td> <td>80点～89点</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>科目の目標を達成している</td> <td>70点～79点</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>科目の目標を最低限達成している</td> <td>60点～69点</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>科目の目標を達成していない</td> <td>0点～59点</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※GPとは成績（Grade）に対応づけた Point のこと S、A、B、Cの評価を得たものを合格とし、単位を授与する。 なお、特別な授業科目については、S、A、B、Cの評価に代えて合格を示すGで表すことがある。</p>	評語	達成度	点数	GP	S	科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている	90点～100点	4	A	科目の目標を十分に達成している	80点～89点	3	B	科目の目標を達成している	70点～79点	2	C	科目の目標を最低限達成している	60点～69点	1	D	科目の目標を達成していない	0点～59点	0	成績	意味	点数	GP	S	科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている	90点～100点	4	A	科目の目標を十分に達成している	80点～89点	3	B	科目の目標を達成している	70点～79点	2	C	科目の目標を最低限達成している	60点～69点	1	D	科目の目標を達成していない	0点～59点
評語	達成度	点数	GP																																																			
S	科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている	90点～100点	4																																																			
A	科目の目標を十分に達成している	80点～89点	3																																																			
B	科目の目標を達成している	70点～79点	2																																																			
C	科目の目標を最低限達成している	60点～69点	1																																																			
D	科目の目標を達成していない	0点～59点	0																																																			
成績	意味	点数	GP																																																			
S	科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成果を修めている	90点～100点	4																																																			
A	科目の目標を十分に達成している	80点～89点	3																																																			
B	科目の目標を達成している	70点～79点	2																																																			
C	科目の目標を最低限達成している	60点～69点	1																																																			
D	科目の目標を達成していない	0点～59点	0																																																			

分野	区分	必選 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
全分野 (教養科目履修案内)							<p>○「5. 修得すべき単位数の概要」注2)を以下のように改訂する。</p> <p>(新)</p> <p>注1) 基礎科目14単位のうち、最高4単位まで教養基礎科目からの単位修得が可能である。教養基礎科目「体育I」の1単位及びAI・データ数理系基礎科目「情報処理概論」の2単位は必修とする。(教養基礎科目を4単位を超えて修得しても、第3学年への進学及び卒業要件単位とすることはできない。)</p> <p>注2) 発展科目「技術者倫理共修」の2単位を必修とする。但し、第1・2学年次の学生の履修は認めない。経済・経営に関する科目は、指定された基礎科目又は発展科目の7科目の中からいずれか1科目(2単位)を修得すること(選択必修)。また、AI・データ数理系発展科目のうち分野ごとに指定されたデータサイエンス科目(2単位)を修得すること(選択必修)。社会活動科目は、社会活動基盤科目を2単位まで卒業要件単位に含めることができる。ボランティア実践活動科目は修得した単位について認定がなされるが、卒業要件単位に含めることはできない。</p> <p>(旧)</p> <p>注1) 基礎科目14単位のうち、最高4単位まで教養基礎科目からの単位修得が可能である。教養基礎科目「体育I」の1単位及びAI・データ数理系基礎科目「情報処理概論」の2単位は必修とする。(教養基礎科目を4単位を超えて修得しても、第3学年への進学及び卒業要件単位とすることはできない。)</p> <p>注2) 発展科目「技術者倫理」の2単位を必修とする。但し、第1・2学年次の学生の履修は認めない。経済・経営に関する科目は、指定された基礎科目又は発展科目の7科目の中からいずれか1科目(2単位)を修得すること(選択必修)。また、AI・データ数理系発展科目のうち分野ごとに指定されたデータサイエンス科目(2単位)を修得すること(選択必修)。社会活動科目は、社会活動基盤科目を2単位まで卒業要件単位に含めることができる。ボランティア実践活動科目は修得した単位について認定がなされるが、卒業要件単位に含めることはできない。</p>

分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

全分野
(教養科目
履修案内)

○「8. 経済・経営に関する科目の履修について」を以下のように改訂する。

(新)

8. 経済・経営に関する科目の履修について

- (1) 教養科目における経済・経営に関する科目の選択必修科目は下表のとおりとし、2単位修得を卒業要件とする。
- (2) 下表の科目は、対象学年以外の履修は不可とする。また、毎週開講される3・4年次開講科目については、各在学年次において1科目のみ履修できるものとする。
- (3) 第1学年入学者は、基礎科目の経済・経営選択必修科目の修得を第3学年への進学要件としない。また、当該科目を履修して不合格となった場合、3年生進級後の当該科目の再履修は認めない。

区分	授業科目 (選択必修)	単位	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年		
			1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
基礎科目	ミクロ経済分析	2	2			2					履修不可			
発展科目	マクロ経済分析	2							2			2		
	経営工学概論	2							2			2		
	商学概論	2		履修不可					2			2		
	ビジネスとマネジメント	2							2			2		
	地域経営概論	2							2			2		
	経営学概論	2								2			2	
	地域産業と国際化	2							2			2		

(旧)

8. 経済・経営に関する科目の履修について

- (1) 教養科目における経済・経営に関する科目の選択必修科目は下表のとおりとし、2単位修得を卒業要件とする。
- (2) 下表の科目は、対象学年以外の履修は不可とする。また、毎週開講される3・4年次開講科目については、各在学年次において1科目のみ履修できるものとする。
- (3) 第1学年入学者は、基礎科目の経済・経営選択必修科目の修得を第3学年への進学要件としない。また、当該科目を履修して不合格となった場合、3年生進級後の当該科目の再履修は認めない。

区分	授業科目 (選択必修)	単位	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年		
			1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
基礎科目	ミクロ経済分析	2	2			2					履修不可			
発展科目	マクロ経済分析	2							2			2		
	経営工学概論	2								2			2	
	商学概論	2		履修不可					2			2		
	ビジネスとマネジメント	2							2			2		
	地域経営概論	2							2			2		
	経営学概論	2								2			2	
	地域産業と国際化	2							2			2		

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容						
全分野 (教養科目 履修案内)							<p>○「9. 「ボランティア実践活動」の単位認定について」を以下のように改訂する。</p> <p>(新)</p> <p>9. 「ボランティア実践活動」の単位認定について</p> <p>(1) 履修申告等</p> <p>①「ボランティア実践活動計画書」の事前提出をもって履修登録に代える。計画書の様式は学務課にある。</p> <p>実際の活動にあたっては、事前に計画書を課程主任の承認を経て共通教育センター長に提出し、その承認を受ける。ただし、災害救助・復旧支援ボランティア実践活動等（以下、災害ボランティア等）特別な事情がある場合は事後に提出することができる。</p> <p>②活動終了後、下記書類を共通教育センター長に提出する。共通教育センター長は提出された書類で成績評価を行う。</p> <p>1) ボランティア実践活動時間を証明するボランティア団体等の責任者の証明書。ただし、災害ボランティア等特別な事情がある場合には、活動を確認できる何らかの証拠を示すことで、これに代えることができる。</p> <p>2) ボランティア活動レポート（当該実践活動の社会的意義、そこから得た自己の向上に関する見解を含めること）</p> <p>(2)活動形態等</p> <p>活動対象は学生が探し、公共団体及びボランティア団体等責任の所在が明確な団体の主催・管理する活動に参加する。</p> <p>(3)活動期間及びその期間の取扱い</p> <p>① ボランティア実践活動のため長期間休学（2ヶ月以上）する場合は、学則27条第2項の適用除外とし、これは休学期間に算入しない。</p> <p>② 休学期間に算入しない期間は、最長3年とする。</p> <p>③ ボランティア実践活動により他の授業を欠席する場合等の不利益は、学生が負担する。</p> <p>④ ボランティア実践活動計画書を提出した場合は、「学生教育研究災害傷害保険」の対象となる。また、これとは別にボランティア実践活動対象の第三者損害賠償保険に加入しなければならない。</p> <p>(4)認定単位数等</p> <p>① ボランティア実践活動科目の単位は、卒業要件単位には含まれない。</p> <p>② 単位数は2単位以内とする。</p> <p>③ 1単位は、実験・実習科目に準じ45時間とし、実践活動及び活動レポートをもって構成する。</p> <p>なお、45時間中に、ボランティア実践活動に関する知識・技術の修得を目的とする公共団体又はボランティア団体等が主催する講座の受講時間のうち5時間（2単位にあっては10時間）を含めることができる。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">実践活動</td> <td style="padding-right: 20px;">40時間以上</td> <td rowspan="2" style="font-size: 3em; padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">計45時間で1単位</td> </tr> <tr> <td>レポート作成</td> <td>5時間以内</td> </tr> </table> <p>④ 単位認定する際の成績評価は「認定」とする。</p>	実践活動	40時間以上	}	計45時間で1単位	レポート作成	5時間以内
実践活動	40時間以上	}	計45時間で1単位										
レポート作成	5時間以内												

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容						
全分野 (教養科目 履修案内)	(旧)		<p>9. 「ボランティア実践活動」の単位認定について</p> <p>(1) 履修申告等</p> <p>① 「ボランティア実践活動計画書」の事前提出をもって履修登録に代える。計画書の様式は学務課にある。</p> <p>実際の活動にあたっては、事前に計画書を課程主任の承認を経て共通教育センター長に提出し、その承認を受ける。ただし、災害救助・復旧支援ボランティア実践活動等（以下、災害ボランティア等）特別な事情がある場合は事後に提出することができる。</p> <p>② 活動終了後、下記書類を共通教育センター長に提出する。共通教育センター長は提出された書類で成績評価を行う。</p> <p>1) ボランティア実践活動時間を証明するボランティア団体等の責任者の証明書。ただし、災害ボランティア等特別の事情がある場合には、活動を確認できる何らかの証拠を示すことで、これに代えることができる。</p> <p>2) ボランティア活動レポート（当該実践活動の社会的意義、そこから得た自己の向上に関する見解を含めること）</p> <p>(2) 活動形態等</p> <p>活動対象は学生が探し、公共団体及びボランティア団体等責任の所在が明確な団体の主催・管理する活動に参加する。</p> <p>(3) 活動期間及びその期間の取扱い</p> <p>① ボランティア実践活動のため長期間休学（2ヶ月以上）する場合は、学則 27 条第 2 項の適用除外とし、これは休学期間に算入しない。</p> <p>② 休学期間に算入しない期間は、最長 3 年とする。</p> <p>③ ボランティア実践活動により他の授業を欠席する場合等の不利益は、学生が負担する。</p> <p>④ ボランティア実践活動計画書を提出した場合は、「学生教育研究災害傷害保険」の対象となる。また、これとは別にボランティア実践活動対象の第三者損害賠償保険に加入しなければならない。</p> <p>(4) 認定単位数等</p> <p>① ボランティア実践活動科目の単位は、卒業要件単位には含まれない。</p> <p>② 単位数は 2 単位以内とする。</p> <p>③ 1 単位は、実験・実習科目に準じ 4 5 時間とし、実践活動及び活動レポートをもって構成する。</p> <p>なお、4 5 時間中に、ボランティア実践活動に関する知識・技術の修得を目的とする公共団体又はボランティア団体等が主催する講座の受講時間のうち 5 時間（2 単位にあっては 1 0 時間）を含めることができる。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">実践活動</td> <td style="padding-right: 20px;">4 0 時間以上</td> <td rowspan="2" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: middle;">計 4 5 時間で 1 単位</td> </tr> <tr> <td>レポート作成</td> <td>5 時間以内</td> </tr> </table> <p>④ 単位認定する際の成績評価は「G」とする。</p>	実践活動	4 0 時間以上	}	計 4 5 時間で 1 単位	レポート作成	5 時間以内				
実践活動	4 0 時間以上	}	計 4 5 時間で 1 単位										
レポート作成	5 時間以内												

分野	区分	必選 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

全分野
(教養科目履修案内)
○「学位授与方針 (DP) と科目の対応表」を以下のように改訂する

(新)

学位授与方針 (DP) と科目の対応表 教養科目

ディプロマ・ポリシー (DP)			
	1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	4. コミュニケーションと協働の力
学部 3,4年 (発展 科目)	(人文科学系) デザイン概論、美術史、美術論、心理学概論 (社会管理科学系) 社会福祉概論 (AI・データ数理系) データサイエンスA～EⅠ・Ⅱ(3年) (複合領域) *コース科目 トータルヘルスマネジメントとスポーツ、SDGs 先端ハイパフォーマンス・スポーツサイエンス、インタラクティブ・システム・デザイン、*先端技術講座、*先端技術演習 16科目	(人文科学系) 日本語作文技術、論理と思考、情報社会と新聞、技術から見た歴史探究 (社会管理科学系) マクロ経済分析、経営工学概論、商学概論、ビジネスとマネジメント、地域経営概論、経営学概論、ベンチャー起業実践基礎、技術開発と知的財産権 (複合領域) *コース科目 技術者倫理共修、地球環境と技術、地域産業と国際化、科学史、SDGs 入門、持続可能な未来を築く労働安全衛生実践、持続可能な未来に向けた地域課題解決実践(4年)、*SDGs 探究演習1・2(3年)、*革新的エンジニア基礎演習 22科目	(人文科学系) 対外関係史、日本の思想形成、文化交流史、東洋社会文化史 (社会管理科学系) 17科目 法学概論、政治学 (複合領域) *コース科目 グローバルコミュニケーション、囲碁で養う実践力、エンジニアリング・デザイン、SDGs 入門、持続可能な未来に向けた地域課題解決実践(4年)、*SDGs 探究演習1・2(3年)、*革新的エンジニア基礎演習、(社会活動) 企業に学ぶ社会人力講義、ボランティア活動基盤、ボランティア実践活動
学部 1,2年 (基礎 科目)	(AI・データ数理系) 情報処理概論(2年)、数理・データサイエンス・人工知能への誘い 9科目 (教養基礎) 数学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎、化学基礎、生物学基礎、体育Ⅰ(1年)、体育Ⅱ(2年)	(人文科学系) ことばとコミュニケーション、現代人間論 (社会管理科学系) 情報検索論、ミクロ経済分析、現代社会の構造と変動 7科目 (教養基礎) 書き方・話し方の基礎演習、レポート作成演習	(人文科学系) 世界観と価値、歴史と文化、社会形成史、文学と人間像、東アジアと日本の文化、東アジアにおける人間観、教育・学習論 (社会管理科学系) 8科目 憲法と現代

(旧)

学位授与方針 (DP) と科目の対応表 教養科目

ディプロマ・ポリシー (DP)			
	1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	4. コミュニケーションと協働の力
学部 3,4年 (発展 科目)	(人文科学系) デザイン概論、美術史、美術論、心理学概論 (社会管理科学系) 社会福祉概論 (AI・データ数理系) データサイエンスA～EⅠ・Ⅱ(3年) (複合領域) *コース科目 トータルヘルスマネジメントとスポーツ、SDGs 先端ハイパフォーマンス・スポーツサイエンス、インタラクティブ・システム・デザイン、*先端技術講座、*先端技術演習 16科目	(人文科学系) 日本語作文技術、論理と思考、情報社会と新聞、技術から見た歴史探究 (社会管理科学系) マクロ経済分析、経営工学概論、商学概論、ビジネスとマネジメント、地域経営概論、経営学概論、技術開発と知的財産権 (複合領域) *コース科目 20科目 技術者倫理、地球環境と技術、地域産業と国際化、科学史、技術イノベーション特別講義1・2(4年)、SDGs 入門、*SDGs 探究演習Ⅰ・Ⅱ(3年)、*革新的エンジニア基礎演習	(人文科学系) EⅠ地域文化論、対外関係史、日本近代と西洋文明、日本の思想形成、文化交流史、東洋社会文化史 (社会管理科学系) 18科目 法学概論、政治学 (複合領域) *コース科目 グローバルコミュニケーション、囲碁で養う実践力、エンジニアリング・デザイン、SDGs 入門、*SDGs 探究演習Ⅰ・Ⅱ(3年)、*革新的エンジニア基礎演習 (社会活動) 企業に学ぶ社会人力講義、ボランティア活動基盤、ボランティア実践活動
学部 1,2年 (基礎 科目)	(AI・データ数理系) 情報処理概論(2年)、数理・データサイエンス・人工知能への誘い 9科目 (教養基礎) 数学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、物理学基礎、化学基礎、生物学基礎、体育Ⅰ(1年)、体育Ⅱ(2年)	(人文科学系) ことばとコミュニケーション、現代人間論 (社会管理科学系) 情報検索論、グローバル環境学概論、ミクロ経済分析、現代社会の構造と変動 8科目 (教養基礎) 書き方・話し方の基礎演習、レポート作成演習	(人文科学系) 世界観と価値、歴史と文化、社会形成史、文学と人間像、東アジアと日本の文化、東アジアにおける人間観、教育・学習論 (社会管理科学系) 8科目 憲法と現代

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
全分野 (外国語科目等履修案内)			○「2. 日本語科目及び日本事情に関する科目」を以下のように改訂する。				
			<p>(新)</p> <p>2. 日本語科目及び日本事情に関する科目</p> <p>日本語及び日本事情は、外国人留学生のみ受講することができ、日本語8単位及び日本事情4単位、計12単位が開講されている。</p> <p>上記の科目を履修するためには、履修申告を行う前に必ず日本語のプレースメント・テスト(診断テスト)を受けなければならない。</p> <p>第1学年入学者は、日本語科目で修得した単位のうち、2単位を第二外国語科目として代替できるが、日本事情科目で修得した単位は第二外国語には代替できない。また、日本語科目及び日本事情科目で修得した単位は、10単位を限度として教養科目の選択科目の単位として代替できる。ただし、第二外国語科目に代替した日本語科目2単位は教養科目の単位には認められない。</p> <p>第3学年入学者は、日本語科目で修得した単位のうち、2単位を第二外国語科目として代替できるが、日本事情科目で修得した単位は第二外国語には代替できない。また、日本語科目及び日本事情科目で修得した単位は、4単位を限度として教養科目の選択科目の単位として代替できる。ただし、第二外国語科目に代替した日本語科目2単位は教養科目の単位には認められない。</p> <p>なお、外国人留学生以外の学生で、外国において相当の期間中等教育(中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。)を受けた者で、教育上有益と認められる場合は、外国人留学生と同様に日本語科目及び日本事情に関する科目を受講することができる。</p> <p>この場合は、「日本語科目及び日本事情に関する科目履修票」に共通教育センター長の承認を得た上で記入し、外国において相当の期間中等教育を受けたことを証明する書類(卒業証明書等)を添えて学務課へ提出しなければならない。</p> <p>(旧)</p> <p>2. 日本語科目及び日本事情に関する科目</p> <p>日本語及び日本事情は、外国人留学生のみ受講することができ、日本語8単位及び日本事情4単位、計12単位が開講されている。</p> <p>上記の科目を履修するためには、履修申告を行う前に必ず日本語のプレースメント・テスト(診断テスト)を受けなければならない。</p> <p>第1学年入学者は、日本語科目で修得した単位のうち、2単位を第二外国語科目として代替できるが、日本事情科目で修得した単位は第二外国語には代替できない。また、日本語科目及び日本事情科目で修得した単位は、10単位を限度として教養科目の単位として代替できる。ただし、第二外国語科目に代替した日本語科目2単位は教養科目の単位には認められない。</p> <p>第3学年入学者は、日本語科目で修得した単位のうち、2単位を第二外国語科目として代替できるが、日本事情科目で修得した単位は第二外国語には代替できない。また、日本語科目及び日本事情科目で修得した単位は、4単位を限度として教養科目の単位として代替できる。ただし、第二外国語科目に代替した日本語科目2単位は教養科目の単位には認められない。</p>				

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
全分野 (外国語科目等履修案内)	○「3. 大学以外の教育施設等における学修成果の単位認定について」を以下のように改訂する。						
	<p>(新)</p> <p>3. 大学以外の教育施設等における学修成果の単位認定について 大学以外の教育施設等における学修成果の単位認定のうち、外国語科目の取扱いについては、別表1のとおりとする。 単位認定を受けようとする者は、LiveCampus Uから「単位認定申請書」をダウンロードし、必要事項を記入したうえで、合格証書又は成績証明書の写しを添えて、学長に願い出るものとする。</p> <p>(旧)</p> <p>3. 大学以外の教育施設等における学修成果の単位認定について 大学以外の教育施設等における学修成果の単位認定のうち、外国語科目の取扱いについては、別表1のとおりとする。 単位認定を受けようとする者は、LiveCampus から「単位認定申請書」をダウンロードし、必要事項を記入したうえで、合格証書又は成績証明書の写しを添えて、学長に願い出るものとする。</p>						

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
全分野 (外国語科目等履修案内)	○授業科目・単位・開講時期等の改訂 特になし						

分野	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
全分野 (教養)	教養基礎 (社会管理科学系基礎科目)	選択	グローバル環境学概論	2	1・2	2	廃止
	教養発展 (人文科学系発展科目)	選択	E U地域文化論	2	3・4	1	廃止
	教養発展 (人文科学系発展科目)	選択	日本近代と西洋文明	2	3・4	2	廃止
	教養発展 (社会管理科学系発展科目)	選択必修	経営工学概論	2	3・4	2	開講学期変更 3・4年2学期→3・4年1学期
	教養発展 (A I・データ数理系発展科目)	選択必修	データサイエンスC	2	3	2	開講学期変更 3年2学期→3年1学期
	教養発展 (複合領域科目)	必修	技術者倫理	2	3・4	1	科目名変更 技術者倫理→技術者倫理共修
	教養発展 (複合領域科目)	選択	持続可能な未来を築く労働安全衛生実践	2	3・4	2	新設
	教養発展 (複合領域科目)	選択	持続可能な未来に向けた地域課題解決実践	2	3・4	1	新設
	教養発展 (複合領域科目)	選択	技学イノベーション特別講義1	1	4	1	廃止
	教養発展 (複合領域科目)	選択	技学イノベーション特別講義2	1	4	1	廃止
	教養発展 (社会活動科目)	選択	ベンチャー起業実践基礎	2	3・4	1	新設
	教養発展 (社会活動科目)	選択	企業に学ぶ社会人力講義	1	3・4	1	令和8年度開講せず

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
全分野 (外国語)	○授業科目・単位・開講時期等の改訂 特になし						

分野	区分	必修 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容																													
機械	○履修案内「3-3. 実務訓練、課題研究の受講基準」の記載内容を、以下のように改訂する。																																			
	<p>(新)</p> <p>3-3. 実務訓練、課題研究の受講基準 「実務訓練」または「課題研究」を受講するには、表2に示す単位数を修得していなければならない。</p> <p>表2 実務訓練または課題研究の受講基準単位数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実務訓練</th> <th>課題研究</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 専門必修科目</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>② 選択必修科目及び一般選択科目 うち選択必修科目</td> <td>22 8</td> <td>20 6</td> </tr> <tr> <td>③ 教養科目 うち必修の「技術者倫理共修」 選択必修の「データサイエンスA」^{※2}及び 選択必修の「経済・経営に関する科目」^{※3}</td> <td>14 2 2 2</td> <td>8 2 2 0</td> </tr> <tr> <td>④ 外国語科目</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 機械工学分野では、「データサイエンスA」は必修。 ※3 教養科目履修案内を参照。</p> <p>(旧)</p> <p>3-3. 実務訓練、課題研究の受講基準 「実務訓練」または「課題研究」を受講するには、表2に示す単位数を修得していなければならない。</p> <p>表2 実務訓練または課題研究の受講基準単位数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実務訓練</th> <th>課題研究</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 専門必修科目</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>② 選択必修科目及び一般選択科目 うち選択必修科目</td> <td>22 8</td> <td>20 6</td> </tr> <tr> <td>③ 教養科目 うち必修の「技術者倫理」及び 選択必修の「データサイエンスA」^{※2}</td> <td>14 4</td> <td>8 4</td> </tr> <tr> <td>④ 外国語科目</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 機械工学分野では、「データサイエンスA」は必修。</p>								実務訓練	課題研究	① 専門必修科目	16	16	② 選択必修科目及び一般選択科目 うち選択必修科目	22 8	20 6	③ 教養科目 うち必修の「技術者倫理共修」 選択必修の「データサイエンスA」 ^{※2} 及び 選択必修の「経済・経営に関する科目」 ^{※3}	14 2 2 2	8 2 2 0	④ 外国語科目	4	3		実務訓練	課題研究	① 専門必修科目	16	16	② 選択必修科目及び一般選択科目 うち選択必修科目	22 8	20 6	③ 教養科目 うち必修の「技術者倫理」及び 選択必修の「データサイエンスA」 ^{※2}	14 4	8 4	④ 外国語科目	4
	実務訓練	課題研究																																		
① 専門必修科目	16	16																																		
② 選択必修科目及び一般選択科目 うち選択必修科目	22 8	20 6																																		
③ 教養科目 うち必修の「技術者倫理共修」 選択必修の「データサイエンスA」 ^{※2} 及び 選択必修の「経済・経営に関する科目」 ^{※3}	14 2 2 2	8 2 2 0																																		
④ 外国語科目	4	3																																		
	実務訓練	課題研究																																		
① 専門必修科目	16	16																																		
② 選択必修科目及び一般選択科目 うち選択必修科目	22 8	20 6																																		
③ 教養科目 うち必修の「技術者倫理」及び 選択必修の「データサイエンスA」 ^{※2}	14 4	8 4																																		
④ 外国語科目	4	3																																		
機械	○分野別履修案内の改訂																																			
	専門	選択	機械システム設計工学	2	3	1	令和8年度開講せず																													

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
電気電子情報	<p>○履修案内「3-4. 卒業要件」の記載内容を、以下のように改訂する。 (令和8年度以前の4年生には適用しない)</p> <p>(新)</p> <p>3-4. 卒業要件 別表Ⅱ「卒業の基準」(p.9)に示す専門科目の内訳は以下のとおりとする(付表2)。 (1) 必修科目 28 単位 (2) 選択科目 18 単位以上 合計 46 単位以上</p> <p>(旧)</p> <p>3-4. 卒業要件 別表Ⅱ「卒業の基準」(p.9)に示す専門科目の内訳は以下のとおりとする(付表2)。 (1) 必修科目 29 単位 (2) 選択科目 17 単位以上 合計 46 単位以上</p>						

分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

電気電子情報 ○「学位授与方針 (DP) と科目の対応表」を以下のように改訂する。

(新)

学位授与方針 (DP) と科目の対応表 電気電子情報工学分野

ディプロマ・ポリシー (DP)							
1. 理数の技法と技術科学の見方		2. 思考力・表現力と社会的視野		3. 専門の基礎力		4. コミュニケーションと協働の力	
学部 4年		実務訓練、課題研究					
	電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション	電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション、電動応用システム、デジタル制御、レーザー工学、核エネルギー工学、高電圧工学、電機設計学及び製図、電気エネルギー応用、発変電工学、電子物性工学II、フォトニクス工学II、光物性工学、電磁波応用工学、応用数学、情報通信理論、数理統計学、ネットワーク工学及び演習、水力学、工業力学、工業熱力学、他分野科目		電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション、電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション、電気技術英語			
学部 3年		データサイエンスB	電気電子情報工学実践演習	電気電子情報数学及び演習I、II、制御理論、電子デバイス・フォトニクス工学、信号理論基礎、電気電子情報工学実験I、II、電気電子情報工学実践演習、上級電気磁気学、アナログ回路工学、電磁エネルギー工学、パワーエレクトロニクス、電力システム、電機変換工学、プラズマ物性工学、ロボティクス、電気法規及び電気施設管理、デバイス工学I、デバイス工学II、電子物性工学I、フォトニクス工学I、プラズマ物性工学、問題解決型実践プログラミング、電子計算機システム、最適化理論とその応用、マルチメディア信号処理、データ構造とアルゴリズム、他分野科目		電気電子情報工学実験I、II、電気電子情報工学実践演習	
学部 2年	工業基礎数学I、II、確率統計、生物学II	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	電気磁気学及び演習II、電気回路及び演習II、基礎情報処理演習、工学基礎実験、電気工学基礎実験、電子回路、制御工学基礎、波動・振動、電気電子計測工学、電力工学、電気機器工学、電子・光波工学基礎I、II、デジタル電子回路			
学部 1年	数学IA、IB、IIA、IIB、数学演習I、II、物理学I、II、化学I、II、生物学I、物理実験及び演習I、II、化学実験及び演習I、II、一般工学概論			電気磁気学及び演習I、電気回路及び演習I、電気電子情報基礎数学			

(旧)

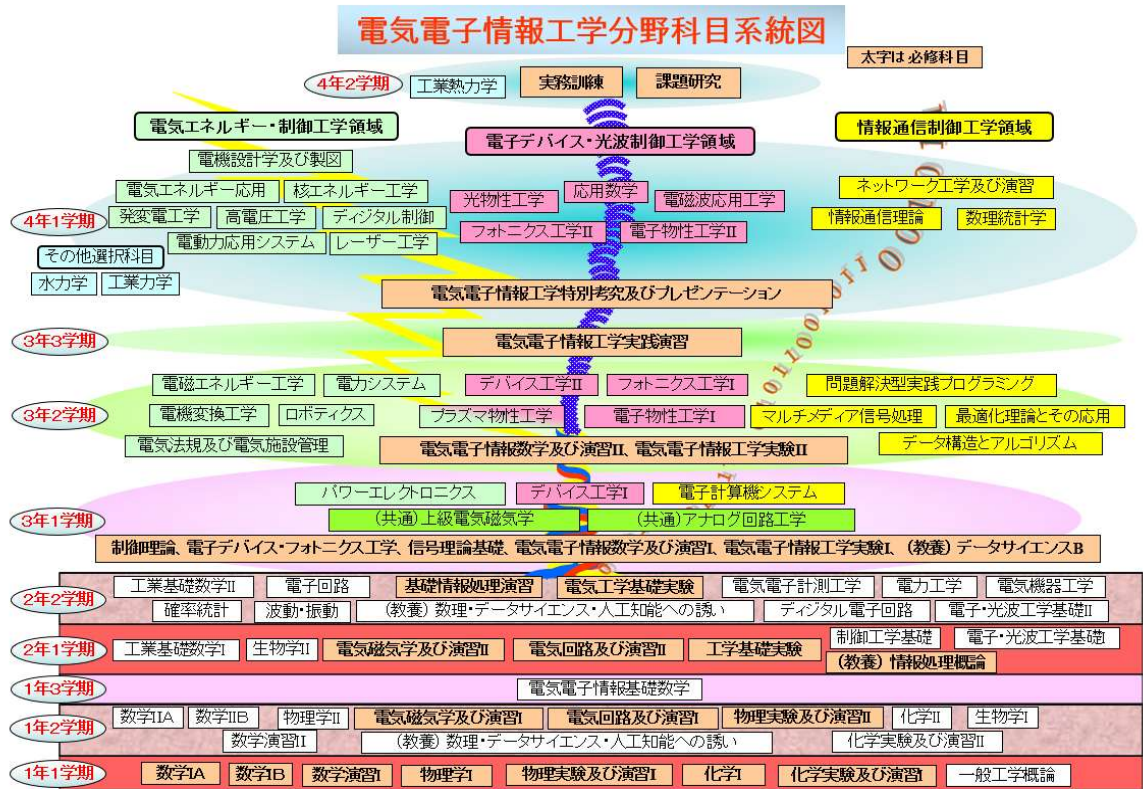
学位授与方針 (DP) と科目の対応表 電気電子情報工学分野

ディプロマ・ポリシー (DP)							
1. 理数の技法と技術科学の見方		2. 思考力・表現力と社会的視野		3. 専門の基礎力		4. コミュニケーションと協働の力	
学部 4年		実務訓練、課題研究					
	電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション	電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション、電動応用システム、ロボティクス、レーザー工学、核エネルギー工学、高電圧工学、電機設計学及び製図、電気エネルギー応用、発変電工学、電子物性工学II、フォトニクス工学II、光物性工学、電磁波応用工学、応用数学、情報通信理論、データベースと応用システム、数理統計学、ネットワーク工学及び演習、水力学、工業力学、工業熱力学、他分野科目		電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション、電気電子情報工学特別考究及びプレゼンテーション、電気技術英語			
学部 3年		データサイエンスB	電気電子情報工学実践演習	電気電子情報数学及び演習I、II、制御理論、電子デバイス・フォトニクス工学、信号理論基礎、電気電子情報工学実験I、II、電気電子情報工学実践演習、上級電気磁気学、アナログ回路工学、電磁エネルギー工学、パワーエレクトロニクス、電力システム、電機変換工学、プラズマ物性工学、デジタル制御、電気法規及び電気施設管理、デバイス工学I、デバイス工学II、電子物性工学I、フォトニクス工学I、プラズマ物性工学、問題解決型実践プログラミング、電子計算機システム、最適化理論とその応用、マルチメディア信号処理、データ構造とアルゴリズム、他分野科目		電気電子情報工学実験I、II、電気電子情報工学実践演習	
学部 2年	工業基礎数学I、II、確率統計、生物学II	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	電気磁気学及び演習II、電気回路及び演習II、基礎情報処理演習、工学基礎実験、電気工学基礎実験、電子回路、制御工学基礎、波動・振動、電気電子計測工学、電力工学、電気機器工学、電子・光波工学基礎I、II、デジタル電子回路			
学部 1年	数学IA、IB、IIA、IIB、数学演習I、II、物理学I、II、化学I、II、生物学I、物理実験及び演習I、II、化学実験及び演習I、II、一般工学概論			電気磁気学及び演習I、電気回路及び演習I、電気電子情報基礎数学			

分野	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	------	------	----	----	----	------

電気電子情報 ○科目系統図を、以下のように改訂する。

(新)



(旧)



分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学 年	学期	改訂内容
電気電子情報	○分野別履修案内の改訂						
	専門	必修	電気電子情報工学実践演習	1	3	2・3	単位数変更 2→1 (令和8年度以前の4年生には適用しない)
	専門	選択	電気技術英語	1	4	1	廃止
	専門	選択	ロボティクス	2	4	1	開講学期変更 4年1学期→3年2学期
	専門	選択	デジタル制御	2	3	2	開講学期変更 3年2学期→4年1学期
	専門	選択	データベースと応用システム	2	4	1	廃止

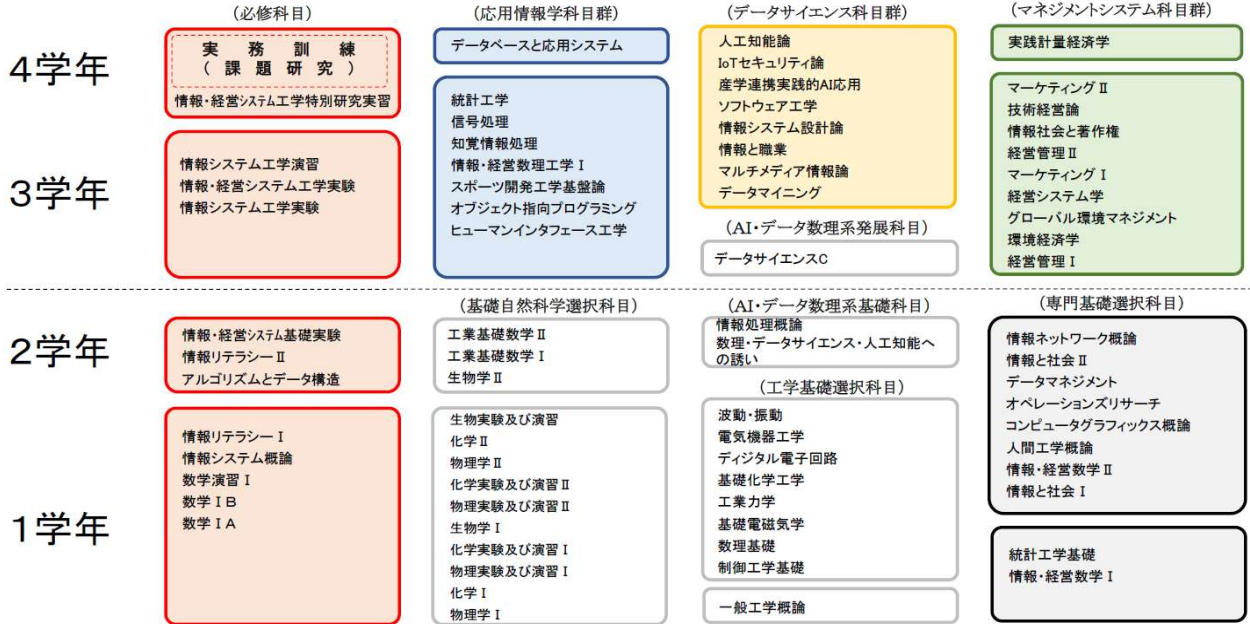
分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

情報・経営システム

○科目系統図を、以下のように改訂する。

(新)

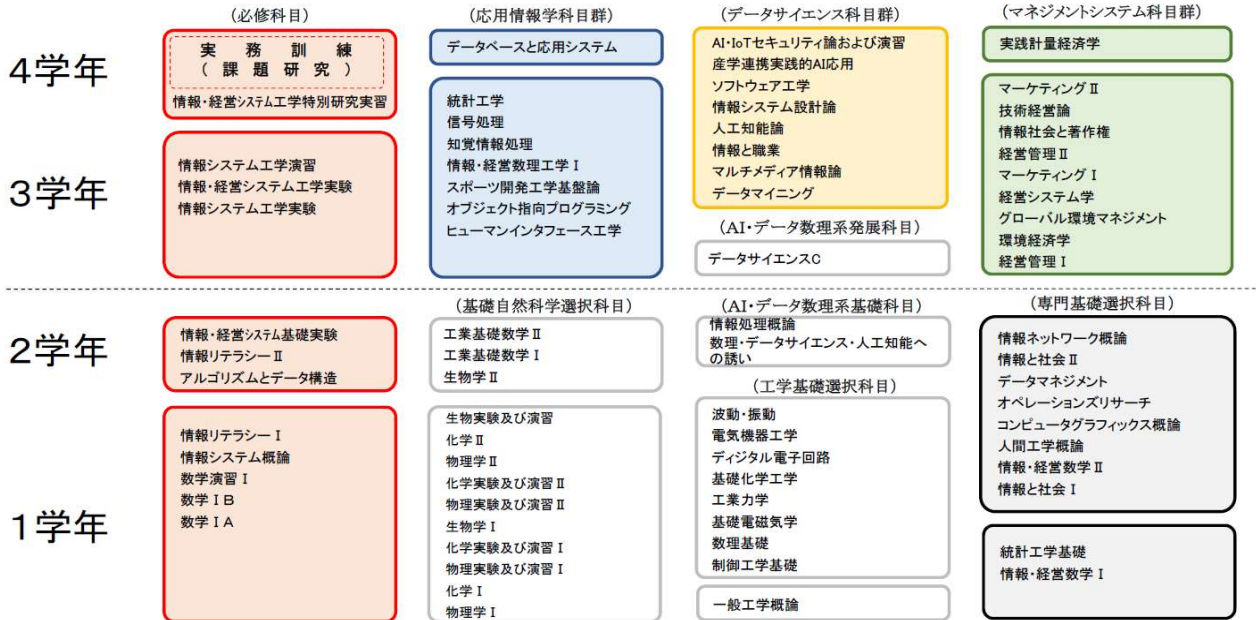
情報・経営システム工学分野



付図 情報・経営システム工学分野の科目系統図

(旧)

情報・経営システム工学分野



付図 情報・経営システム工学分野の科目系統図

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
情報・経営 システム	○分野別履修案内の改訂						
	専門	選択	データベースと応用システム	2	4	1	R7以前入学情報限定
	専門	選択	AI・IoTセキュリティ論	2	3	2	科目名変更 AI・IoTセキュリティ論 →IoTセキュリティ論
	専門	選択	技術経営論	2	3	2	令和8年度開講せず
	専門	選択	人工知能論	2	3	1	開講学期変更 3年1学期→4年1学期

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単位	学 年	学期	改 訂 内 容
物質生物	○分野別履修案内の改訂						
	専門基礎	必修	基礎物理化学 I	2	1	2	科目名変更 基礎物理化学 I →基礎物理化学 1
	専門基礎	選択	基礎物理化学 3	1	2	2	廃止
	専門	必修	物質生物工学総合演習 1	3	3	2・3	単位数変更 3→4 (令和8年度以前の4年生には適用しない)
	専門	必修	物質生物工学総合演習 2	3	4	1・2	単位数変更 3→4 (令和8年度以前の4年生には適用しない)
	専門	選択	生命科学 1	2	3	1	科目名変更 生命科学 1 →分子生物学
	専門	選択	生命科学 2	2	3	2	科目名変更 生命科学 2 →細胞生物学
	専門	選択	生化学 1	2	3	1	科目名変更 生化学 1 →生化学
	専門	選択	生化学 2	2	3	2	科目名変更 生化学 2 →生体膜と代謝
	専門	選択	生命科学3	2	4	1	科目名変更 生命科学 3 →植物分子生物学
	専門	選択	生命科学4	2	4	1	廃止
	専門	選択	遺伝育種学	2	4	1	新設
	専門	選択	生化学3	2	4	1	科目名変更 生化学 3 →遺伝子工学
	専門	選択	生化学4	2	4	1	科目名変更 生化学 4 →神経生物学
	専門	選択	発生・再生・幹細胞	2	4	1	新設
	専門	選択	物理実験	2	3	2	廃止
	専門	選択	地学	2	3	2	開講学期変更 3年2学期→3年1学期
専門	選択	地学実験	2	3	2	開講学期変更 3年2学期→3年1学期	

分野	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	------	------	----	----	----	------

環境社会基盤	○履修案内「3-3. 実務訓練、課題研究の受講基準」の記載内容を、以下のように改訂する。						
	(新)	<p>3-3. 実務訓練の受講基準</p> <p>実務訓練は第4学年の第2学期以降に行われることから、第4学年第1学期までの単位取得状況が環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱ（1単位）と実務訓練（8単位）をのぞいて卒業要件を満たしていなければならない。この条件を満たした者を「実務訓練有資格者」とする。なお、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱは実務訓練の開始前までに単位取得の認定を得なければならない。</p>					
(旧)	<p>3-3. 実務訓練の受講基準</p> <p>実務訓練は第4学年の第2学期以降に行われることから、第4学年第1学期までの単位取得状況が第2学期に開講されるCAD設計製図（1単位）、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱ（1単位）と実務訓練（8単位）をのぞいて卒業要件を満たしていなければならない。この条件を満たした者を「実務訓練有資格者」とする。なお、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱは実務訓練の開始前までに単位取得の認定を得なければならない。</p>						

環境社会基盤	○履修案内に、「学位授与方針（DP）と科目の対応表」を、以下のように改訂する。																																								
	(新)	<p>学位授与方針（DP）と科目の対応表 環境社会基盤工学分野</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">ディプロマ・ポリシー（DP）</th> <th>1. 理数の技法と技術科学の見方</th> <th>2. 思考力・表現力と社会的視野</th> <th>3. 専門の基礎力</th> <th>4. コミュニケーションと協働の力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部 4年</td> <td colspan="2">数値シミュレーション基礎</td> <td colspan="4">実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 3年</td> <td>線形代数、応用統計学、解析学要論</td> <td>データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術</td> <td colspan="4">社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 2年</td> <td>工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎</td> <td>情報処理概論</td> <td>数理・データサイエンス・人工知能への誘い</td> <td colspan="3">基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎</td> </tr> <tr> <td>学部 1年</td> <td>数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">図学</td> </tr> </tbody> </table>							ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力	学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目				学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目				学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎			学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学	
	ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力																																			
学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目																																						
学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目																																						
学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎																																					
学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学																																					
(旧)	<p>学位授与方針（DP）と科目の対応表 環境社会基盤工学分野</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">ディプロマ・ポリシー（DP）</th> <th>1. 理数の技法と技術科学の見方</th> <th>2. 思考力・表現力と社会的視野</th> <th>3. 専門の基礎力</th> <th>4. コミュニケーションと協働の力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部 4年</td> <td colspan="2">数値シミュレーション基礎</td> <td colspan="4">実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、Transportation Economics with Python、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 3年</td> <td>線形代数、応用統計学、解析学要論</td> <td>データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術</td> <td colspan="4">社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 2年</td> <td>工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎</td> <td>情報処理概論</td> <td>数理・データサイエンス・人工知能への誘い</td> <td colspan="3">基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎</td> </tr> <tr> <td>学部 1年</td> <td>数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">図学</td> </tr> </tbody> </table>							ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力	学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、Transportation Economics with Python、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目				学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目				学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎			学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学		
	ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力																																			
学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、Transportation Economics with Python、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目																																						
学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目																																						
学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎																																					
学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学																																					

分野	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	------	------	----	----	----	------

環境社会基盤

○科目系統図を、以下のように改訂する。

(新)

環境社会基盤工学分野 系統図

(旧)

環境社会基盤工学分野 系統図

環境社会基盤

○分野別履修案内の改訂

専門基礎	選択	応用力学Ⅱ	2	2	2	・備考欄に「△」を追記する
専門基礎	選択	応用力学演習Ⅱ	2	2	2	・備考欄に「△」を追記する

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
環境社会基盤	○分野別履修案内の改訂						
	専門	必修	CAD設計製図	2	4	2	開講学期変更 4年2学期→4年1学期
	専門	選択	リモートセンシング工学	2	3	2	開講学期変更 3年2学期→3年1学期
	専門	選択	橋梁工学	2	4	1	新設
	専門	選択	環境リスク管理学	2	4	1	令和8年度開講せず
	専門	選択	土木振動学	2	3	2	令和8年度開講せず

分野	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	------	------	----	----	----	------

環境社会基盤	○履修案内「3-3. 実務訓練、課題研究の受講基準」の記載内容を、以下のように改訂する。						
	<p>(新)</p> <p>3-3. 実務訓練の受講基準</p> <p>実務訓練は第4学年の第2学期以降に行われることから、第4学年第1学期までの単位取得状況が環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱ（1単位）と実務訓練（8単位）をのぞいて卒業要件を満たしていなければならない。この条件を満たした者を「実務訓練有資格者」とする。なお、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱは実務訓練の開始前までに単位取得の認定を得なければならない。</p> <p>(旧)</p> <p>3-3. 実務訓練の受講基準</p> <p>実務訓練は第4学年の第2学期以降に行われることから、第4学年第1学期までの単位取得状況が第2学期に開講されるCAD設計製図（1単位）、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱ（1単位）と実務訓練（8単位）をのぞいて卒業要件を満たしていなければならない。この条件を満たした者を「実務訓練有資格者」とする。なお、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅱは実務訓練の開始前までに単位取得の認定を得なければならない。</p>						

環境社会基盤	○履修案内に、「学位授与方針（DP）と科目の対応表」を、以下のように改訂する。																																																																											
	<p>(新)</p> <p>学位授与方針（DP）と科目の対応表 環境社会基盤工学分野</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">ディプロマ・ポリシー（DP）</th> <th>1. 理数の技法と技術科学の見方</th> <th>2. 思考力・表現力と社会的視野</th> <th>3. 専門の基礎力</th> <th>4. コミュニケーションと協働の力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部 4年</td> <td colspan="2">数値シミュレーション基礎</td> <td colspan="4">実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 3年</td> <td>線形代数、応用統計学、解析学要論</td> <td>データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術</td> <td colspan="4">社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 2年</td> <td>工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎</td> <td>情報処理概論</td> <td>数理・データサイエンス・人工知能への誘い</td> <td colspan="3">基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎</td> </tr> <tr> <td>学部 1年</td> <td>数学ⅠA、ⅠB、ⅠA、ⅠB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">図学</td> </tr> </tbody> </table> <p>(旧)</p> <p>学位授与方針（DP）と科目の対応表 環境社会基盤工学分野</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">ディプロマ・ポリシー（DP）</th> <th>1. 理数の技法と技術科学の見方</th> <th>2. 思考力・表現力と社会的視野</th> <th>3. 専門の基礎力</th> <th>4. コミュニケーションと協働の力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部 4年</td> <td colspan="2">数値シミュレーション基礎</td> <td colspan="4">実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、Transportation Economics with Python、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 3年</td> <td>線形代数、応用統計学、解析学要論</td> <td>データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術</td> <td colspan="4">社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目</td> </tr> <tr> <td>学部 2年</td> <td>工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎</td> <td>情報処理概論</td> <td>数理・データサイエンス・人工知能への誘い</td> <td colspan="3">基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎</td> </tr> <tr> <td>学部 1年</td> <td>数学ⅠA、ⅠB、ⅠA、ⅠB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習</td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">図学</td> </tr> </tbody> </table>								ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力	学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目				学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目				学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎			学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅠA、ⅠB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学				ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力	学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、Transportation Economics with Python、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目				学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目				学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎			学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅠA、ⅠB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学	
	ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力																																																																						
学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目																																																																									
学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目																																																																									
学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎																																																																								
学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅠA、ⅠB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学																																																																								
	ディプロマ・ポリシー（DP）		1. 理数の技法と技術科学の見方	2. 思考力・表現力と社会的視野	3. 専門の基礎力	4. コミュニケーションと協働の力																																																																						
学部 4年	数値シミュレーション基礎		実務訓練、課題研究 グローバル環境マネジメント、環境社会基盤工学実験Ⅱ、環境社会基盤工学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、応用水文気象学、応用流体工学、地理情報解析演習、応用土木振動学、Transportation Economics with Python、構造物のライフサイクルマネジメント、環境微生物工学、環境リスク管理学、CAD設計製図、他分野科目																																																																									
学部 3年	線形代数、応用統計学、解析学要論	データサイエンスEⅠ・Ⅱ、社会基盤と情報技術	社会基盤と情報技術、The State of World Environments、応用力学Ⅲ、水災害工学、地盤工学Ⅰ、Ⅱ、都市の認識、交通システム分析、コンクリート構造Ⅰ、Ⅱ、環境衛生工学、資源エネルギー循環工学、環境社会基盤工学テーマセミナー、地球環境学、防災・復興工学、土木振動学、鋼構造学、水工水理学、リモートセンシング工学、土木計画システム分析、都市の計画、道路工学、Environmental and Ecology Engineering、他分野科目																																																																									
学部 2年	工業基礎数学Ⅰ、Ⅱ、確率統計、生物学Ⅱ、数理基礎	情報処理概論	数理・データサイエンス・人工知能への誘い	基礎電磁気学、波動・振動、測量学、測量学実習、応用力学Ⅰ、Ⅱ、応用力学演習Ⅰ、Ⅱ、数理基礎、環境化学基礎、基礎設計製図、環境社会基盤工学実験Ⅰ、基礎水理学、土質力学、建設材料学基礎																																																																								
学部 1年	数学ⅠA、ⅠB、ⅠA、ⅠB、数学演習Ⅰ、Ⅱ、物理学Ⅰ、Ⅱ、化学Ⅰ、Ⅱ、生物学Ⅰ、物理実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、化学実験及び演習Ⅰ、Ⅱ、一般工学概論、生物実験及び演習			図学																																																																								

分野	区分	必選の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	------	------	----	----	----	------

環境社会基盤

○科目系統図を、以下のように改訂する。

(新)

環境社会基盤工学分野 系統図

(旧)

環境社会基盤工学分野 系統図

環境社会基盤

○分野別履修案内の改訂

専門基礎	選択	応用力学Ⅱ	2	2	2	・備考欄に「△」を追記する
専門基礎	選択	応用力学演習Ⅱ	2	2	2	・備考欄に「△」を追記する

分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
教職課程	○「教職課程科目履修案内（教科：理科）」についての改訂						
	化学	選択 必修	基礎物理学 I	2	1	2	科目名変更 基礎物理化学 I →基礎物理化学 1
	化学	選択	基礎物理化学 3	1	2	2	廃止
	生物学	選択 必修	生命科学 1	2	3	1	科目名変更 生命科学 1 →分子生物学
	生物学	選択	生命科学 2	2	3	2	科目名変更 生命科学 2 →細胞生物学
	生物学	選択	生命科学 3	2	4	1	科目名変更 生命科学 3 →植物分子生物学
	生物学	選択	生命科学 4	2	4	1	廃止
	生物学	必修	生化学 1	2	3	1	科目名変更 生化学 1 →生化学
	生物学	選択	生化学 2	2	3	2	科目名変更 生化学 2 →生体膜と代謝
	生物学	選択	生化学 3	2	4	1	科目名変更 生化学 3 →遺伝子工学
	生物学	選択	生化学 4	2	4	1	科目名変更 生化学 4 →神経生物学
	物理学実験、 化学実験、 生物学実験、 地学実験	選択 必修	物理実験	2	3	2	廃止

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
メジャー・ マイナー コース							<p>○履修案内「2. 履修の方法」の記載内容を、以下のように改訂する。</p> <p>(新)</p> <p>2. 履修の方法等</p> <p>①登録の時期 本コースへの登録は、第1学年入学者については、第2学年1学期または第3学年1学期のいずれかで 行う。また、第3学年入学者については、第3学年1学期に行う。なお、登録したマイナー分野を変 更することはできない。登録の具体的な方法については、説明会（1学期）における指示に従うこと。</p> <p>②履修方法 本コースの学生は、自身が登録したマイナー分野について、付表1に示すマイナー科目の中から10単 位を修得する。</p> <p>③履修上の注意点</p> <p>(1) 修得したマイナー科目の単位は、メジャー分野の卒業の要件として認められるが、その上限は、 3ページ「4 学年別・分野別順序以外の履修」の(3)に記載の「他分野科目」の単位とあわせて10 単位とする。</p> <p>(2) マイナー科目の単位数はCAP制の対象となり、各学期に履修申告できる単位数の上限に含まれる (CAP制の詳細は、2ページに記載の「3 履修方法」(6)を参照)。</p> <p>(3) マイナー科目の成績は、GPA算出の母数に含まれる(GPAの詳細は、4ページに記載の「7 成績 の評価と単位の授与」(5)を参照)。</p> <p>(4) 付表1に示すように、マイナー科目は基盤科目と発展科目から構成される。基盤科目はオンデマ ンド授業として開講され、発展科目は対面授業として開講される。ただし、第3学年2学期に対面 授業として開講される発展科目は、第4学年1学期にオンデマンド授業としても開講される。</p> <p>(5) 第1学年入学者については、第2学年1学期に本コースの登録を行った場合、第3学年2学期に 開講される基盤科目を、第2学年2学期に履修することができる。ただし、その単位数は、第3学 年への進学基準には含まれない。</p> <p>(6) 技術革新フロンティアコースの学生については、マイナー科目履修に当たり本コースに登録する 必要はない。</p> <p>④コースの修了 自身が登録したマイナー分野のマイナー科目10単位を第4学年1学期までに修得することが本コー スの修了要件である。なお、コースを修了できなかった場合でも、それまでに修得したマイナー科目の 単位は、メジャー分野の卒業要件として認められる(他分野科目の単位とあわせて10単位まで)。本コ ースの修了要件を満たした者に対しては、マイナー分野が明記された卒業証明書を発行する。</p> <p>(旧)</p> <p>2. 履修方法</p> <p>①登録の時期 本コースへの登録は、第1学年入学者については、第2学年1学期または第3学年1学期のいずれか で行う。また、第3学年入学者については、第3学年1学期に行う。なお、登録したマイナー分野を変 更することはできない。登録の具体的な方法については、説明会（1学期）における指示に従うこと。</p> <p>②コースの修了要件 本コースを修了するには、自身が登録したマイナー分野について、付表1に示すマイナー科目の中か ら10単位を修得する必要がある。なお、修得したマイナー科目の単位は、メジャー分野の卒業の要件と して認められるが、その上限は、3ページ「4 学年別・分野別順序以外の履修」の(3)に記載の「他分 野科目」の単位とあわせて10単位とする。</p> <p>③履修上の注意点</p> <p>(1) 第4学年の1学期までに本コースの修了要件を満たしていること。</p> <p>(2) マイナー科目の単位数はCAP制の対象となり、各学期に履修申告できる単位数の上限に含まれる (CAP制の詳細は、2ページに記載の「3 履修方法」(6)を参照)。</p> <p>(3) マイナー科目の成績は、GPA算出の母数に含まれる(GPAの詳細は、4ページに記載の「7 成績 の評価と単位の授与」(5)を参照)。</p> <p>(4) 付表1に示すように、マイナー科目は基盤科目と発展科目から構成される。基盤科目はオンデマ ンド授業として開講され、発展科目は対面授業として開講される。ただし、第3学年2学期に対面 授業として開講される発展科目は、第4学年1学期にオンデマンド授業としても開講される。</p> <p>(5) 第1学年入学者については、第2学年1学期に本コースの登録を行った場合、第3学年2学期に 開講される基盤科目を、第2学年2学期に履修することができる。ただし、その単位数は、第3学 年への進学基準には含まれない。</p> <p>(6) 技術革新フロンティアコースの学生については、マイナー科目履修に当たり本コースに登録する 必要はない。</p> <p>④コースの修了 本コースの修了要件を満たした者に対しては、マイナー分野が明記された卒業証明書が発行される。</p>

分野	区分	必修 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
メジャー・ マイナー コース	○「メジャー・マイナーコース履修案内」についての改訂						
	物質生物工学	発展 科目	生命科学 1	2	3	1	科目名変更 生命科学 1 → 分子生物学
	物質生物工学	発展 科目	生命科学 3	2	4	1	科目名変更 生命科学 3 → 植物分子生物学
	物質生物工学	発展 科目	生命科学 4	2	4	1	廃止
	物質生物工学	発展 科目	生化学 1	2	3	1	科目名変更 生化学 1 → 生化学
	物質生物工学	発展 科目	生化学 3	2	4	1	科目名変更 生化学 3 → 遺伝子工学
物質生物工学	発展 科目	生化学 4	2	4	1	科目名変更 生化学 4 → 神経生物学	

分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

メジャー・
マイナー
コース

○「メジャー・マイナーコース履修案内 [付表1]」についての改訂

(新)

区分	授業科目	単 位 数	3 学年			4 学年			担 当 教 員	備 考
			1	2	3	1	2	3		
物質 生 物 工 学	物理化学の基礎と応用 1	2		●					高橋 (由)	「基盤」と「発 展」から合わせて 10単位を修得
	物理化学の基礎と応用 2	2		●				大沼・藤原		
	無機化学の基礎と応用	2		●				石橋・本間 (剛)		
	有機化学の基礎と応用	2		●				今久保		
	生命科学の基礎と応用 ※	2		●				高原		
	計	10								
	固体化学	2				●			斎藤 (秀)・田中 (諭)	
	熱力学	2				●			多賀谷	
	有機化学	2				●			前川	
	生化学	2				●			高橋 (祥)・小笠原	
分子生物学	2				●			政井・霜田		
固体材料物性 2	2				●			田中 (諭)・本間 (剛)		
生物物理	2				●			藤原		
高分子材料 2	2				●			河原		
植物分子生物学	2				●			西村		
遺伝子工学	2				●			笠井		
神経生物学	2				●			霜田		
計	22									
環 境 社 会 基 盤 工 学	土質力学とその応用	2		●					豊田 (浩)	「基盤」と「発 展」から合わせて 10単位を修得
	基礎水理学とその応用	2		●					犬飼	
	環境化学基礎とその応用	2		●					幡本・渡利・姫野	
	応用力学 I とその応用	2		●					林	
	建設材料学基礎とその応用	2		●					高橋 (修)・中村 (文)・ 下村・稲葉	
計	10									
会 基 盤 工 学	社会基盤と情報技術	2				●			下村	「基盤」と「発 展」から合わせて 10単位を修得
	グローバル環境マネジメント ※	2				●			李・加藤 (哲)・※小松 (俊)・松川・※松田	
	応用力学 III	2				●			林	
	水災害工学	2				●			陸・細山田・熊倉・高橋 (一義)	
	地盤工学 I	2				●			豊田 (浩)	
	都市の認識	2				●			松川	
	交通システム分析	2				●			加藤 (哲)	
	コンクリート構造 I	2				●			下村	
	環境衛生工学	2				●			山口・※小松 (俊)	
	計	18								

修得したマイナー科目の単位は、メジャー分野の卒業要件として認められる。各分野における専門科目区分は以下の通り。
 機械工学分野：一般選択科目 電気電子情報工学分野：選択科目 情報・経営システム工学分野：選択科目 (その他)
 物質生物工学分野：選択科目 環境社会基盤工学分野：選択科目

- ※次の科目は重複履修できない。
- ・「材料科学とその応用」と「材料科学」(物質生物工学分野)
 - ・「工業熱力学とその応用」と「工業熱力学」(電気電子情報工学分野)
 - ・「水力学とその応用」と「水力学」(電気電子情報工学分野)
 - ・「電気磁気学とその応用」と「基礎電磁気学」(機械工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野、環境社会基盤工学分野)
 - ・「制御工学とその応用」と「制御工学基礎」(機械工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野)
 - ・「アナログ電子回路とその応用」と「電子回路」(機械工学分野、物質生物工学分野)
 - ・「デジタル電子回路とその応用」と「デジタル電子回路」(情報・経営システム工学分野)
 - ・「人間工学とその応用」と「人間工学概論」(物質生物工学分野)
 - ・「生命科学の基礎と応用」と「生物学 1」(機械工学分野、電気電子情報工学分野、情報・経営システム工学分野、環境社会基盤工学分野)

※「グローバル環境マネジメント」については、情報・経営システム工学分野がメジャー分野である場合はマイナー分野の修得要件としては認められないため、本科目以外で要件を満たすこと。

分野	区分	必修 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

メジャー・
マイナー
コース

(旧)

区分	授業科目	単位数	3 学年			4 学年			担当教員	備考	
			1	2	3	1	2	3			
物質 生物学 工学	基盤科目	物理化学の基礎と応用1	2		●				高橋 (由)	「基盤」と「発展」から合わせて10単位を修得	
		物理化学の基礎と応用2	2		●				大沼・藤原		
		無機化学の基礎と応用	2		●				石橋・本間 (剛)		
		有機化学の基礎と応用	2		●				今久保		
		生命科学の基礎と応用 ※	2		●				高原		
	計	10									
	発展科目	固体化学	2				●				斎藤 (秀)・田中 (論)
		熱力学	2				●				多賀谷
		有機化学	2				●				前川
		生化学1	2				●				高橋 (祥)・小笠原
		生命科学1	2				●				政井・霜田
		固体材料物性2	2				●				田中 (論)・本間 (剛)
		生物物理	2				●				藤原
		高分子材料2	2				●				河原
		生命科学3	2				●				西村
		生命科学4	2				●				山本 (麻)
		生化学3	2				●				笠井
		生化学4	2				●				霜田
		計	24								
環境 社会 基盤 工学	基盤科目	土質力学とその応用	2		●				豊田	「基盤」と「発展」から合わせて10単位を修得	
		基礎水理学とその応用	2		●				大飼		
		環境化学基礎とその応用	2		●				小松 (俊)・橋本・山口・姫野		
		応用力学Ⅰとその応用	2		●				林		
		建設材料科学基礎とその応用	2		●				高橋 (修)・中村 (文)		
	計	10									
	発展科目	社会基盤と情報技術	2				●				下村
		グローバル環境マネジメント ※ ²	2				●				李・加藤 (哲)・小松 (俊)・松川・※松田 (曜)
		応用力学Ⅲ	2				●				林
		水災害工学	2				●				陸・細山田・熊倉・高橋 (一義)
		地盤工学Ⅰ	2				●				豊田
		都市の認識	2				●				松川
		交通システム分析	2				●				加藤 (哲)
コンクリート構造Ⅰ		2				●			下村		
環境衛生工学	2				●			山口・小松 (俊)			
計	18										

※次の科目は重複履修できない。

- ・「材料科学とその応用」と「材料科学」(物質生物工学分野)
- ・「工業熱力学とその応用」と「工業熱力学」(電気電子情報工学分野)
- ・「水力学とその応用」と「水力学」(電気電子情報工学分野)
- ・「電気磁気学とその応用」と「基礎電磁気学」(機械工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野、環境社会基盤工学分野)
- ・「制御工学とその応用」と「制御工学基礎」(機械工学分野、情報・経営システム工学分野、物質生物工学分野)
- ・「アナログ電子回路とその応用」と「電子回路」(機械工学分野、物質生物工学分野)
- ・「デジタル電子回路とその応用」と「デジタル電子回路」(情報・経営システム工学分野)
- ・「人間工学とその応用」と「人間工学概論」(物質生物工学分野)
- ・「生命科学の基礎と応用」と「生物学Ⅰ」(機械工学分野、電気電子情報工学分野、情報・経営システム工学分野、環境社会基盤工学分野)

※²「グローバル環境マネジメント」については、情報・経営システム工学分野がメジャー分野である場合はマイナー分野の修了要件としては認められないため、本科目以外で要件を満たすこと。

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容								
技術革新フロンティアコース							<p>○履修案内「2. 履修の方法等」の記載内容を、以下のように改訂する。</p> <p>(新)</p> <p>2. 履修の方法等</p> <p>① 申請方法 (第1学年入学者のみ)</p> <p>本コースを志望する学生は、第1学年3月に実施するラボ・マッチングデーに参加することを申請の要件とする。本コースの申請については、本コースの説明会等における指示に従うこと。</p> <p>② 履修方法</p> <p>本コースの学生は、教養科目、専門基礎科目 (第1学年入学者のみ)、専門科目に開講されている以下のコース必修科目を履修する。また、75ページの「メジャー・マイナーコース履修案内」の付表1に示すマイナー科目より10単位を修得する。</p> <table border="0"> <tr> <td>・SDGs 探究演習1</td> <td>1単位 (教養科目 [複合領域科目])</td> </tr> <tr> <td>・SDGs 探究演習2</td> <td>1単位 (教養科目 [複合領域科目])</td> </tr> <tr> <td>・技術革新フロンティア基礎演習</td> <td>1単位 (専門基礎科目・第1学年入学者のみ)</td> </tr> <tr> <td>・技術革新フロンティア・スタートアップ演習</td> <td>1単位 (専門科目)</td> </tr> </table> <p>③履修上の注意点</p> <p>(1) 上記のコース必修科目及びマイナー科目から修得した単位は、卒業要件単位に含めることができる。コース必修科目の科目区分は所属する分野の教育課程表 (付表)、マイナー科目の科目区分については「メジャー・マイナーコース履修案内」の付表を確認すること。</p> <p>(2) マイナー科目の履修方法については、「メジャー・マイナーコース履修案内」の「2. 履修の方法等」を確認すること。</p> <p>(3) 本コースの学生は、複数分野のマイナー科目を履修することが可能である。履修にあたっては、指導教員に相談すること。</p> <p>(4) コースを辞退する場合は、コース辞退願を提出する。コースを辞退した場合でも、履修したコース必修科目の単位及びマイナー科目の単位は、メジャー分野の卒業の要件として認められるが、マイナー科目の単位の上限は、3ページ「4 学年別・分野別順序以外の履修」の(3)に記載の「他分野科目」の単位とあわせて10単位を限度とする。</p> <p>④コースの修了</p> <p>本コースの修了要件は、所属する分野の卒業要件をみたとともに、②のコース必修科目とマイナー科目10単位を原則として標準修業年限内の第4学年1学期までに修得する必要がある。本コースの修了要件を満たした者に対しては、マイナー分野が明記された卒業証明書を発行する。</p> <p>⑤その他</p> <p>本コースとメジャー・マイナーコースに同時に所属することはできない。メジャー・マイナーコース登録者が本コース生に認定された場合は、本コースのみの所属となり、メジャー・マイナーコースについては登録取消となる。</p>	・SDGs 探究演習1	1単位 (教養科目 [複合領域科目])	・SDGs 探究演習2	1単位 (教養科目 [複合領域科目])	・技術革新フロンティア基礎演習	1単位 (専門基礎科目・第1学年入学者のみ)	・技術革新フロンティア・スタートアップ演習	1単位 (専門科目)
・SDGs 探究演習1	1単位 (教養科目 [複合領域科目])														
・SDGs 探究演習2	1単位 (教養科目 [複合領域科目])														
・技術革新フロンティア基礎演習	1単位 (専門基礎科目・第1学年入学者のみ)														
・技術革新フロンティア・スタートアップ演習	1単位 (専門科目)														

分野	区分	必選 の別	授業科目	単位	学年	学期	改訂内容
----	----	----------	------	----	----	----	------

技術革新フロンティアコース	<p>(旧)</p> <p>2. 履修の方法等</p> <p>① 申請方法 (第1学年入学者のみ)</p> <p>本コースを志望する学生は、第1学年3月に実施するラボ・マッチングデーに参加することを申請の要件とする。本コースの申請については、本コースの説明会等における指示に従うこと。</p> <p>② 履修方法</p> <p>本コースの学生は、教養科目、専門基礎科目 (第1学年入学者のみ)、専門科目に開講されている以下のコース必修科目を履修する。また、75ページの「メジャー・マイナーコース履修案内」の付表1に示す登録したマイナー分野のマイナー科目より10単位を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 探究演習1 1単位 (教養科目 [複合領域科目]) ・SDGs 探究演習2 1単位 (教養科目 [複合領域科目]) ・技術革新フロンティア基礎演習 1単位 (専門基礎科目・第1学年入学者のみ) ・技術革新フロンティア・スタートアップ演習 1単位 (専門科目) <p>③履修上の注意点</p> <p>1) 上記のコース必修科目及びマイナー科目から修得した単位は、卒業要件単位に含めることができる。</p> <p>2) マイナー科目の履修方法については、「メジャー・マイナーコース履修案内」の「2. 履修方法」を確認すること。</p> <p>3) 本コースの学生で「融合領域型マイナー分野」を選択した学生については、複数分野のマイナー科目を履修することが可能である。履修にあたっては、指導教員に相談すること。</p> <p>4) コースを辞退する場合は、コース辞退願を提出する。コースを辞退した場合でも、履修したコース必修科目の単位及びマイナー科目の単位は、メジャー分野の卒業の要件として認められるが、マイナー科目の単位の上限は、3ページ「4 学年別・分野別順序以外の履修」の(3)に記載の「他分野科目」の単位とあわせて10単位を限度とする。</p> <p>④コースの修了</p> <p>②のコース必修科目とマイナー科目10単位を修得し、各コース生が所属する分野の卒業要件を満たすことが本コースの修了要件である。本コースの修了要件を満たした者に対しては、マイナー分野が明記された卒業証明書を発行する。</p> <p>⑤その他</p> <p>本コースとメジャー・マイナーコースに同時に所属することはできない。メジャー・マイナーコース登録者が本コース生に認定された場合は、本コースのみの所属となり、メジャー・マイナーコースについては登録取消となる。</p>
---------------	--

量子・原子力工学コース	<p>○「2. 履修の方法等」の記載を、以下のように改訂する。</p> <p>(新)</p> <p>2. 履修の方法等</p> <p>①履修方法</p> <p>本コースは、学部3学年の全分野の学生が受講することができる。本コースを志望する者は、各分野の専門科目・専門基礎科目として開講されているコース科目 (表1参照) を履修する。</p> <p>②申請方法</p> <p>本コースを志望する学生は、「量子・原子力工学実践」もしくは「量子・原子力工学探究」の第1回の講義で告知される申告期間に「量子・原子力工学コース志望申請書」を提出しなければならない。コース選択必修科目である「量子・原子力工学実践」もしくは「量子・原子力工学探究」の履修申告は本申請書の提出を以て替えるが、その他のコース科目については通常の履修申告を行うこと。科目の履修に際してはガイダンスでの説明および配布される資料をよく確認し、手続きをすること。</p> <p>なお、他分野科目が含まれる場合は、「他分野科目履修票」に課程主任の承認を得た上で記入し、学務課に提出すること。コース選択必修科目である「量子・原子力工学実践」もしくは「量子・原子力工学探究」の第1回の講義では本コースの履修についても説明を行うため、量子・原子力工学コースを志望する者は必ず出席すること。コース申請書はLiveCampusU・ILIASからダウンロードできる。</p> <p>「量子・原子力工学実践」および「量子・原子力工学探究」の日程については掲示等で周知するため、よく注意すること。</p> <p>③コースの修了</p> <p>本コースは、表1に示す◎印のコース選択必修科目のうち少なくとも1科目と、各分野で開講されているコース選択科目から4単位以上を合わせて6単位以上を取得することを修了要件とする。なお、コース選択科目4単位以上については学部卒業時までには取得すること。本コースを修了した者に対しては、卒業時に本コースの修了証を発行する。</p>
-------------	--

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
----	----	----------	---------	-----	-----	-----	---------

量子・原子
力工学コー
ス

◆量子・原子力工学コース科目一覧（表1）

	講義名	単 位	開講分野/科目区分	学 期
◎	量子・原子力工学実践	2	量子・原子力工学コース特別科目	1 学期集中
	量子・原子力工学探究	2	量子・原子力工学コース特別科目	2 学期集中
選択	環境・エネルギー	2	機械工学分野/専門科目	1 学期
	工業熱力学	2	機械工学分野/専門基礎科目	2 学期
	核エネルギー工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	1 学期
	発変電工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	1 学期
	電磁エネルギー工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	2 学期
	固体化学	2	物質生物工学分野/専門科目	1 学期
	熱力学	2	物質生物工学分野/専門科目	1 学期
	固体材料物性 1	2	物質生物工学分野/専門科目	2 学期
	固体材料物性 2	2	物質生物工学分野/専門科目	1 学期
	量子力学	2	物質生物工学分野/専門科目	2 学期
	応用土木振動学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	1 学期
	防災・復興工学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	2 学期
	鋼構造学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	2 学期

(18)

2. 履修の方法等

①履修方法

本コースは、学部3学年の全分野の学生が受講することができる。本コースを志望する者は、各分野の専門科目・専門基礎科目として開講されているコース科目（表1参照）を履修する。

②申請方法

本コースを志望する学生は、「量子・原子力工学実践」もしくは「量子・原子力工学探究」の第1回の講義で告知される申告期間に「量子・原子力工学コース志望申請書」を提出しなければならない。コース選択必修科目である「量子・原子力工学実践」もしくは「量子・原子力工学探究」の履修申告は本申請書の提出を以て替えるが、その他のコース科目については通常の履修申告を行うこと。科目の履修に際してはガイダンスでの説明および配布される資料をよく確認し、手続きをすること。

なお、他分野科目が含まれる場合は、「他分野科目履修票」に課程主任の承認を得た上で記入し、学務課に提出すること。コース選択必修科目である「量子・原子力工学実践」もしくは「量子・原子力工学探究」の第1回の講義では本コースの履修についても説明を行うため、量子・原子力工学コースを志望する者は必ず出席すること。コース申請書はLiveCampus・ILIASからダウンロードできる。

「量子・原子力工学実践」および「量子・原子力工学探究」の日程については掲示等で周知するため、よく注意すること。

③コースの修了

本コースは、◎印のコース選択必修科目のうち少なくとも1科目と、各分野で開講されているコース科目（表1参照）4単位の計6単位以上を取得することを修了要件とする。なお、本コースを修了した者に対しては、卒業時に本コースの修了証を発行する。

◆量子・原子力工学コース科目一覧（表1）

	講義名	単 位	開講分野/科目区分	学 期
◎	量子・原子力工学実践	2	量子・原子力工学コース特別科目	1 学期集中
	量子・原子力工学探究	2	量子・原子力工学コース特別科目	2 学期集中
	環境・エネルギー	2	機械工学分野/専門科目	1 学期
	工業熱力学	2	機械工学分野/専門基礎科目	2 学期
	核エネルギー工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	1 学期
	発変電工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	1 学期
	電磁エネルギー工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	2 学期
	固体化学	2	物質生物工学分野/専門科目	1 学期
	熱力学	2	物質生物工学分野/専門科目	1 学期
	固体材料物性 1	2	物質生物工学分野/専門科目	2 学期
	固体材料物性 2	2	物質生物工学分野/専門科目	1 学期
	量子力学	2	物質生物工学分野/専門科目	2 学期
	応用土木振動学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	1 学期
	防災・復興工学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	2 学期
	鋼構造学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	2 学期

分野	区分	必修 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容																																																																																																																							
安全工学基礎 コース	○履修案内「2. 履修の方法等」の記載内容を、以下のように改訂する。																																																																																																																													
	<p>(新)</p> <p>2. 履修の方法等</p> <p>①履修方法 表1のコース科目一覧に示す各分野の専門科目を履修する。</p> <p>②申請方法 本コースは、全分野の学部第3・4学年が受講申請することができる。本コースを志望する学生は、指定する期間中に「安全工学基礎コース志望申請書」を学務課に提出しなければならない(1学期と2学期の履修申告期間を予定)。科目の履修に際しては配付される資料等をよく確認し、手続きをすること。 なお、コース必修科目も含め、他分野科目を履修する場合は、「他分野科目履修票」に課程主任の承認を得た上で記入し、学務課に提出すること。</p> <p>③コースの修了 本コースは、コース必修科目「安全工学基礎」と各分野で開講されている安全に関するコース科目(表1参照)4単位の計6単位を取得することを修了要件とする。 なお、本コースを修了した者に対しては、卒業時に本コースの修了証を発行する。</p> <p>◆安全工学基礎コース科目一覧(表1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講義名</th> <th>単位</th> <th>開講分野/科目区分</th> <th>学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎安全工学基礎</td> <td>2</td> <td>コース必修科目/機械工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>メカトロニクス基礎</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>機械システム設計工学</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>応用材料科学Ⅱ</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>スマートファクトリー</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>高電圧工学</td> <td>2</td> <td>電気電子情報工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>電気法規及び電気施設管理</td> <td>2</td> <td>電気電子情報工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>実践計量経済学</td> <td>2</td> <td>情報・経営システム工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>データマイニング</td> <td>2</td> <td>情報・経営システム工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>人工知能論</td> <td>2</td> <td>情報・経営システム工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>生化学3</td> <td>2</td> <td>物質生物工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>固体材料物性2</td> <td>2</td> <td>物質生物工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>社会基盤と情報技術</td> <td>2</td> <td>環境社会基盤工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>防災・復興工学</td> <td>2</td> <td>環境社会基盤工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> </tbody> </table> <p>(旧)</p> <p>2. 履修の方法等</p> <p>①履修方法 表1のコース科目一覧に示す各分野の専門科目を履修する。</p> <p>②申請方法 本コースは、全分野の学部第3・4学年が受講申請することができる。本コースを志望する学生は、指定する期間中に「安全工学基礎コース志望申請書」を学務課に提出しなければならない(1学期と2学期の履修申告期間を予定)。科目の履修に際しては配付される資料等をよく確認し、手続きをすること。 なお、コース必修科目も含め、他分野科目を履修する場合は、「他分野科目履修票」に課程主任の承認を得た上で記入し、学務課に提出すること。</p> <p>③コースの修了 本コースは、コース必修科目「安全工学基礎」と各分野で開講されている安全に関するコース科目(表1参照)4単位の計6単位を取得することを修了要件とする。なお、本コースを修了した者に対しては、卒業時に本コースの修了証を発行する。</p> <p>◆安全工学基礎コース科目一覧(表1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>講義名</th> <th>単位</th> <th>開講分野/科目区分</th> <th>学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎安全工学基礎</td> <td>2</td> <td>コース必修科目/機械工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>メカトロニクス基礎</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>機械システム設計工学</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>応用材料科学Ⅱ</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>スマートファクトリー</td> <td>2</td> <td>機械工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>高電圧工学</td> <td>2</td> <td>電気電子情報工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>電気法規及び電気施設管理</td> <td>2</td> <td>電気電子情報工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> <tr> <td>実践計量経済学</td> <td>2</td> <td>情報・経営システム工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>データマイニング</td> <td>2</td> <td>情報・経営システム工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>人工知能論</td> <td>2</td> <td>情報・経営システム工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>生化学3</td> <td>2</td> <td>物質生物工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>固体材料物性2</td> <td>2</td> <td>物質生物工学分野/専門科目</td> <td>4年1学期</td> </tr> <tr> <td>社会基盤と情報技術</td> <td>2</td> <td>環境社会基盤工学分野/専門科目</td> <td>3年1学期</td> </tr> <tr> <td>防災・復興工学</td> <td>2</td> <td>環境社会基盤工学分野/専門科目</td> <td>3年2学期</td> </tr> </tbody> </table>							講義名	単位	開講分野/科目区分	学期	◎安全工学基礎	2	コース必修科目/機械工学分野/専門科目	4年1学期	メカトロニクス基礎	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期	機械システム設計工学	2	機械工学分野/専門科目	3年1学期	応用材料科学Ⅱ	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期	スマートファクトリー	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期	高電圧工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	4年1学期	電気法規及び電気施設管理	2	電気電子情報工学分野/専門科目	3年2学期	実践計量経済学	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	4年1学期	データマイニング	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	3年1学期	人工知能論	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	4年1学期	生化学3	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期	固体材料物性2	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期	社会基盤と情報技術	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年1学期	防災・復興工学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年2学期	講義名	単位	開講分野/科目区分	学期	◎安全工学基礎	2	コース必修科目/機械工学分野/専門科目	4年1学期	メカトロニクス基礎	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期	機械システム設計工学	2	機械工学分野/専門科目	3年1学期	応用材料科学Ⅱ	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期	スマートファクトリー	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期	高電圧工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	4年1学期	電気法規及び電気施設管理	2	電気電子情報工学分野/専門科目	3年2学期	実践計量経済学	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	4年1学期	データマイニング	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	3年1学期	人工知能論	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	3年1学期	生化学3	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期	固体材料物性2	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期	社会基盤と情報技術	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年1学期	防災・復興工学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目
講義名	単位	開講分野/科目区分	学期																																																																																																																											
◎安全工学基礎	2	コース必修科目/機械工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
メカトロニクス基礎	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
機械システム設計工学	2	機械工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
応用材料科学Ⅱ	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
スマートファクトリー	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
高電圧工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
電気法規及び電気施設管理	2	電気電子情報工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
実践計量経済学	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
データマイニング	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
人工知能論	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
生化学3	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
固体材料物性2	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
社会基盤と情報技術	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
防災・復興工学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
講義名	単位	開講分野/科目区分	学期																																																																																																																											
◎安全工学基礎	2	コース必修科目/機械工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
メカトロニクス基礎	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
機械システム設計工学	2	機械工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
応用材料科学Ⅱ	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
スマートファクトリー	2	機械工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
高電圧工学	2	電気電子情報工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
電気法規及び電気施設管理	2	電気電子情報工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											
実践計量経済学	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
データマイニング	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
人工知能論	2	情報・経営システム工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
生化学3	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
固体材料物性2	2	物質生物工学分野/専門科目	4年1学期																																																																																																																											
社会基盤と情報技術	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年1学期																																																																																																																											
防災・復興工学	2	環境社会基盤工学分野/専門科目	3年2学期																																																																																																																											

分野	区分	必選 の別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
安全工学基 礎コース	○履修案内「2. 履修の方法等」の記載内容を、以下のように改訂する。						
	物質生物工学分 野	専門	生化学3	2	4	1	科目名変更 生化学3→遺伝子工学

分野	区分	必 選 の 別	授 業 科 目	単 位	学 年	学 期	改 訂 内 容
							○学内規則等「(成績の評価)第45条」の記載内容を、以下のように改訂する。
							<p>(新)</p> <p>(成績の評価)</p> <p>第45条 授業科目の試験の成績は、S・A・B・C及びDの5種類の評語をもって表し、S・A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。ただし、必要と認める場合は、S・A・B・Cの評語に代えて合格・みなし・認定、Dの評語に代えて不合格・無効で表すことができる。</p> <p>(旧)</p> <p>(成績の評価)</p> <p>第45条 授業科目の試験の成績は、S・A・B・C及びDの5種類の評語をもって表し、S・A・B及びCを合格とし、Dを不合格とする。ただし、必要と認める場合は、S・A・B・Cの合格の評語に代えてGで表すことができる。</p>
							○国立大学法人長岡技術科学大学実務訓練の履修に関する規則(抜粋)「(趣旨)」の記載内容を、以下のように改訂する。
							<p>(新)</p> <p>国立大学法人長岡技術科学大学実務訓練の履修に関する規則(抜粋)</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、国立大学法人長岡技術科学大学学則第39条の規定に基づき、実務訓練の履修に関し必要な事項を定める。</p> <p>(実務訓練の授業)</p> <p>第2条 実務訓練の授業は、実習により行うものとする。</p> <p>(実務訓練機関)</p> <p>第3条 学生が実務訓練を履修する国若しくは地方公共団体の機関又は会社等の法人(以下「実務訓練機関」という。)は、実務訓練委員会の議を経て学長が選定する。</p> <p>(実務訓練申込書及び誓約書)</p> <p>第4条 実務訓練を履修する学生(以下「実務訓練学生」という。)は実務訓練申込書及び誓約書を学長を経て実務訓練機関に提出しなければならない。</p> <p>2 前項の実務訓練申込書及び誓約書は、学長が認めるときは、実務訓練機関所定の実務訓練申込書又は誓約書をもって替えることができる。</p> <p>(実務訓練の履修)</p> <p>第5条 実務訓練学生は、実務訓練機関の定める諸規則及び実務訓練責任者(実務訓練機関における実務訓練の責任者であって学長が委嘱する者をいう。以下同じ。)の指示にしたがって実務訓練を履修しなければならない。</p> <p>(異動報告書)</p> <p>第6条 実務訓練学生は、実務訓練期間中に実務訓練工場等の異動を生じたときは、その都度異動報告書を実務訓練責任者の確認を得て学長に提出しなければならない。</p> <p>(実務訓練報告書)</p> <p>第7条 実務訓練学生は、実務訓練報告書を1月ごとに実務訓練責任者の確認を得て指導教員に提出しなければならない。</p> <p>(実務訓練時間)</p> <p>第8条 実務訓練の時間は、実務訓練責任者の指定する時間とする。</p> <p>(遅参、早退等する場合の手続)</p> <p>第9条 実務訓練学生は、実務訓練の時間に遅参、早退等をする場合は、事前に実務訓練責任者の承認を受けなければならない。</p> <p>(休む場合の手続)</p> <p>第10条 実務訓練学生は、自己の都合により実務訓練を休む場合は、事前に実務訓練責任者の承認を受けなければならない。</p> <p>(休日)</p> <p>第11条 実務訓練学生の休日は、実務訓練責任者の指定する日とする。</p> <p>(雑則)</p> <p>第12条 この規則に定めるもののほか、実務訓練に関し必要な事項は、学長が定める。</p>

(旧)

国立大学法人長岡技術科学大学実務訓練の履修に関する規則（抜粋）

（趣 旨）

第1条 この規則は、国立大学法人長岡技術科学大学学則第39条の規定に基づき、実務訓練の履修に関し必要な事項を定める。

（実務訓練の授業）

第2条 実務訓練の授業は、実習により行うものとする。

（実務訓練機関）

第3条 学生が実務訓練を履修する国若しくは地方公共団体の機関又は会社等の法人（以下「実務訓練機関」という。）は、実務訓練委員会の議を経て学長が選定する。

（実務訓練申込書及び誓約書）

第4条 実務訓練を履修する学生（以下「実務訓練学生」という。）は別紙様式第1の実務訓練申込書及び別紙様式第2の誓約書を学長を経て実務訓練機関に提出しなければならない。

2 前項の実務訓練申込書及び誓約書は、学長が認めるときは、実務訓練機関所定の実務訓練申込書又は誓約書をもって替えることができる。

（実務訓練の履修）

第5条 実務訓練学生は、実務訓練機関の定める諸規則及び実務訓練責任者（実務訓練機関における実務訓練の責任者であって学長が委嘱する者をいう。以下同じ。）の指示にしたがって実務訓練を履修しなければならない。

（異動報告書）

第6条 実務訓練学生は、実務訓練期間中に実務訓練工場等の異動を生じたときは、その都度別紙様式第3の異動報告書を実務訓練責任者の認印を得て学長に提出しなければならない。

（実務訓練報告書）

第7条 実務訓練学生は、別紙様式第4の実務訓練報告書を1月ごとに実務訓練責任者の認印を得て指導教員に提出しなければならない。

（実務訓練時間）

第8条 実務訓練の時間は、実務訓練機関において定める時間又は実務訓練責任者の指定する時間とする。

（遅参、早退等する場合の手続）

第9条 実務訓練学生は、実務訓練の時間に遅参、早退等をする場合は、事前に実務訓練責任者の承認を受けなければならない。

（休む場合の手続）

第10条 実務訓練学生は、自己の都合により実務訓練を休む場合は、事前に実務訓練責任者の承認を受けなければならない。

（休日）

第11条 実務訓練学生の休日は、実務訓練機関において定める休日とする。

（雑則）

第12条 この規則に定めるもののほか、実務訓練に関し必要な事項は、学長が定める。